

第7回大月市教育委員会定例会 会議録

- ・ 開催日時 令和6年9月27日（金曜日）
午前10時00分から午前10時55分
- ・ 開催場所 市役所第2庁舎3階会議室
- ・ 出席委員 宇野誠教育長、野尻正人教育長職務代理者、鈴木英夫委員
山崎亜由子委員、矢光重敏委員、矢嶋千鶴委員
- ・ 出席職員 山口教育次長兼社会教育課長、佐野学校教育課長
和智こどもの学び支援担当リーダー
藤本学校づくり担当リーダー
西山社会教育担当リーダー、鈴木スポーツ振興担当リーダー
- ・ 傍聴人 な し

〔会 議〕

1 開会

【教育長開会宣言】

2 会議録の承認

職員が、令和6年度第6回教育委員会定例会会議録を朗読し承認された。

3 教育委員会報告

教育長から、令和6年8月29日から令和6年9月27日までの教育委員会活動が報告された。

4 議事

議案第17号 代替教員内申について

（ 非公開 ）

〔説明〕和智こどもの学び支援担当リーダー

【原案どおり決定】

議案第18号 就学指定学校変更・区域外就学について

（ 非公開 ）

〔説明〕和智こどもの学び支援担当リーダー

【原案どおり決定】

議案第19号 令和5年度大月市教育委員会の教育行政点検・評価について

〔説明〕佐野学校教育課長

こちらにつきましては、前回資料をお渡ししましたので、今回は質疑やご意見等をいただきたいと思います。質疑等により修正等を加え今回の教育委員会で概ねの内容をご承認いただきたいと考えております。修正等を加えた資料は、後日速やかに確定版として送付させていただきたいと考えております。その後、10月15日開催予定の市議会議員定例懇談会へ報告することとなります。前回資料をお渡ししましたので、今回は資料を添付していませんが、意見等をいただきたいと思います。

宇野教育長

それでは、課長が話しましたとおり、今日はお一人お一人にご意見を伺って、それをこの中に反映し手直し後に送付して、お認めいただくということをお願いいたします。もう一度会議は開きませんが、議員への説明が迫っていますので、このような形で進めさせていただきます。

野尻教育長職務代理者

一つお願いしたいことがございます。先月の教育委員会で聞いておけば見直しするときに良かったかなと思うのですが、「教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務」について、生きる力から含めての評価項目なのですが、かなり評価が上がっていて、BからAになっている項目が多いです。前半の方は教科書採択に関する事で明白であるので結構なのですが、資料の8ページから変わっている項目がかなりあるので、その根拠というものを教えていただきたいです。例えば、コロナの時には初狩の会議が一回なくなったとか、短大の公開授業ができなかったとか、それぞれ色々な理由があって評価が下がったりというのが明白だったのですが、今回はBからAに変わった根拠みたいなものが分かりづらいと思います。昨年と文章とそれほど変わっていないけれど評価は上がっているという項目が多分にあるので、その根拠を教えてもらえるとありがたいと思います。

宇野教育長

それでは、8ページからBがAに変わったり、CがBに変わった所だけ説明ができれば事務局の方からお願いします。

藤本学校づくり担当リーダー

8ページから15ページについて、音楽発表会、栄養教諭が学校に出向く活動、文化活動等を体験する子ども教室、市民会館の展示、県立図書館の金田一秀穂館長出張トーク等コロナの影響で今までできていなかった取り組みが昨年からは活動できるようになったということで評価を上げさせていただきました。

宇野教育長

例えば、令和5年度にコミュニティ・スクールの準備がかなり進んだこと、それから勤労者体育センター閉館に伴っての対応等が積極的にできたということが良かったのではないのでしょうか。それでは、職務代理から順番にご意見をお聞かせください。

野尻教育長職務代理者

毎年、教育振興計画と照らし合わせながら見させていただくのですが、やはり生きる力、確かな学力の部分については項目が本当に多岐にわたっていて、評価するには難しい部分があると常々感じています。それから、それぞれの項目の何を視点において評価するのかということによってだいぶ変わってくるような気がします。例えば、豊かな心の育成についても評価項目の中には8つの目標とする政策があるのですが、3つくらいが評価の項目の中に入っていない部分があるので、Aでいいのかなと思いつつも、確かに実績としてはそれぞれBからAに変わったところもあり、評価についてはこれでいいのかなとは思いますが。今回振興計画がここで終わって来年度作成する中で、昨年の教育委員会の中でも基本計画と評価項目の一致ということで、どういう風に評価するかを含めて基本計画を作成した方がいいだろうというお話がありましたので、それに期待するというので今回はこの評価でいいのかなと思えます。ただ、私が現場にいたので感じたことなのですが、豊かな心の育成の中では、福祉だとか人権については小学校で実施をしているところも多いです。例えば、福祉については各学校で色んな体験活動していたりするので、そういうことも内容に入れてもいいのかなと思えました。それから、昨年七保小のブログをチェックしていたところ、やまびこ支援学校と居住地交流会ということで、つまり地域に住んでいる子どもを小学校が呼んで交流をしていることを2回行っているんですね。それまでは気づかなかったのですが、ブログをチェックしながらそんなこともやっているんだと思い、それはまさにこの評価の中で言うと15ページの障害者の生涯学習の推進だとか地域と学校の連携・協働の推進の部分に該当するのではないかと、継続的にしているのか昨年のみの実施だったのかは学校に確認してみないと分かりませんが、そんな内容も今後また来年度にかけて評価できればいいかなと思えました。基本的にはこの評価の内容で良いと思えます。

宇野教育長

ありがとうございます。来年度まではこの形式で、県の教育大綱、教育基本計画が3月に出ましたので、それに基づいて今、来年度から5年間の大月市の教育基本計画と大綱を策定中です。それについて評価できるのは令和8年度からになりますので、その時には職務代理がおっしゃるようなもう少し具体的な評価ができるようになるだろうと思えます。ただ、大変重要な指摘で学校の様子をもう少しまとめて、どこの学校でどのようなことをやっているのかアンテナを高くして、来年度以降の内容に入れていただけたらと思えます。

鈴木委員

7ページの評価の詳細の中になりますが、「また、全国学力・学習状況調査と同日に山梨県教育委員会が中学校2年生を対象に実施している山梨県学力把握調査についても同時に行われた。これについての結果は県平均を上回った。コロナ前は、小学校については各教科とも平均正答率が県平均より低かったが、」というように小学校のことも書かれていますがこのところが文章としておかしいのではないかと思います。この項目は、最初の部分で改善方法が示され、真ん中あたりで向上しているという所があり、最後の部分で教科担任制のメリットという効果や成果が表れているので、BではなくAでもいいのかなという風に思うところがあります。

それから次に、9ページが一番下の段になりますけれど、「令和4年度実施の体力テストにおける合計得点」とありますが、令和5年度の評価なので5年度のことを書くべきではないかなと思います。次に、11ページの最初の部分に、「初狩小学校へ学校運営協議会を平成30年4月に設置し、協議会を3回実施」とありますが、この文だと平成30年に実施したように読まれてしまわないか、または令和5年までの評価とすると、令和5年までに3回実施したのか5年度に3回実施したのか、そのところが少し理解しづらいという風に思います。

それから、12ページの最初の部分で、「葛野川下流域を巡る郷土の歴史探検ツアーを賑岡町浅利地区で開催」とあるのですが、なぜ浅利地区で開催になるのかなというところ、次の段の「浅利地区に関する歴史や文化財について解説」という部分については、文章が足りなくなって中身が抜けてしまっているのではないかと思います。以上になります。

宇野教育長

ありがとうございました。具体的にご指摘をいただきましてありがとうございます。7ページのところで、ご指摘をいただいた真ん中あたりですが、そのところには国の全国学力調査と県の学力把握調査が並列で書いてありますが、県の学力把握調査は小学校では実施していないので、小学校のところは「全国学力・学習状況調査は」と入れておいた方がいいですね。それから、成果があるということで鈴木委員さんからはAでもいいのではないかなということですが、この辺のところについては他の委員さんはどう思いますか。

鈴木委員

そのところで思いますことは、具体的にというか成績が上がればAになるのか、上がらなくても教育委員会の取り組み事項として評価してAなのかという部分で違ってきますが、教育委員会の事業評価というところで考えたら、Aでいいのではないかなと思います。

矢光委員

これはベースをどこにおくかということですよ。県平均を上回ったらAなのか、日本全国の平均を上回ったらAなのか、という話になってしまうので、そのベースを決めておかないと評価のしようがないという感じはしますよね。それで、「小学校については各教科とも平均正答率が県平均より低かったが、ICT教育の導入により、学力の向上につながったこと」をメインに打ち出すとすると、ランクアップでもいいのかなと思いますけれど、全体的な学力の向上というのは、例えば、国語や算数が伸びてそれで全体も伸びたから評価が上がったという風にしていかないとなかなか難しい。その辺を考慮してどちらかに決めていただければと思います。

宇野教育長

土台にするのは全国ではなく山梨県になります。なかなか評価は難しいのですが、こちらに任せていただいてもよろしいでしょうか。

野尻教育長職務代理者

一つ懸念するのは学力調査の結果で評価が変わるということですが、4月の総合

教育会議の中でも教育長の方から見えない学力も大切な学力であるというお話がありました。ただ、それは見えないだけにどう評価されるのかということになりますが、あくまでも学校現場での取り組みや子どもたちの様子で評価しなければいけないことだと思います。ここにあるようにほとんど学力調査の結果が大部分を占めている中で、あとはその言語、英語、情報の問題も、命を守るものもそれぞれいろいろなことが入り込んでいる項目なので、簡単にその評価の結果で左右するのはいかなものかだと思います。今年は比較的良い成績だったのですが、来年落ちたらこの評価を下げるのかというと、学校全体で取り組んだものがそれだけですべて評価されてしまうとこれもいかなものかなという懸念があります。確かに子どもたちの学力が見える中で上がることは大変良いことであり、大いに評価をしたいのですが、その他の部分で子どもたちがいろいろな取り組みをしているので、それも評価すればより良い評価になるとと思います。

宇野教育長

おっしゃるとおりですね。成果だけでやっていくと毎年違ってきて基準も狭まってしまうので、学校はどう取り組んでいるか、教育委員会はどんな取り組みをしているかということを中心と考えていくと、例えば、ICTはもう3年やっていますけれど、授業の中で電子黒板を使ったり、一人一台パソコンを利用していくことが学力の向上につながると文科省でも認めていますので、そういう面で言うと大月市はかなり進んでいると思います。ですからAにしてもいいのかなと思うのですが、ただこれはまだ道半ばだと思うので、そう思えば学校も確かに見えない学力やICTも頑張ってくれていて、その他の県教委が言っている子ども主体の授業について、令和6年度にそれをかなり始めているので、もしかしたら今年はまだBにしておいて、来年さらにそういういろいろなことを頑張っていけばいいかなと思います。今回はBのままということではいかがでしょうか。

佐野学校教育課長

かなりAに近いBということでBの幅が60～80%で、それがAまではいかないけれどかなりAに近づいているBという評価でいかがでしょうか。議員定例懇談会でもそのように説明させていただきたいと思います。

それから、9ページの体力テストにつきましては、最新のものということで確認させていただきます。

宇野教育長

11ページのところは文章を直せば問題ないと思うので、30年度から今に至るまで毎年3回ずつ実施しているということです。

それから、12ページのところは内容を訂正させていただきます。以上でよろしいでしょうか。ありがとうございました。

山崎委員

丁寧に見やすく作っていただいております。2人の先生から出た意見と同じ部分もあって、BからAに上がったところの理由をお聞きしたいと思っていたのですが、先ほど説明していただいたので大丈夫です。

コロナが明けてかなり活動が前のように戻って、子どもたちの文化的な活動やス

ポーツの活動もできるようになりみんなすごく元気になってきていると感じるので、評価が上がって良かったと思います。以上になります。

矢光委員

読ませていただいて最初に感じたのは、定性評価が多すぎるということですね。「〇〇年度に実施しました、だからAです。というのと実施しました、その結果こういう成果が出たからAです」という風になっていかないと理解が難しくなってしまう。例えば、10ページ下段の令和5年度の教育相談について、教育支援室105件、教育支援センター61件、前年度は教育支援室173件、教育支援センター26件ということは、教育支援室は減っているけれど教育支援センターは倍近くに増えている。この変動要因はというとどこにも書いていない、そうなると何でこうなったのかという理由が分からない。そうするとこれを評価してくださいと言われてもなかなか難しいので、例えば、教育支援センターはこういう理由があったから倍になっています、教育支援室はこういう理由でこれだけ減っていますという風に書いておいていただければ非常に納得して、その結果を見て評価をAかBあるいはCという風になると思います。

それから、14ページ下段の黄色い箇所が一番下にあります「12月に実施した「明治維新と辛亥革命をめぐって」と題した公開講座は、学生や特別聴講生のほか、市民も受講した。」と書いてありますが、これはどのくらいの人数だったのかによってこの評価はCからBに上げられるのかという話になってくると思います。ですので少しそういうところを工夫してもらって、今回はこれでいいと思うのですが、今後は見直しをお願いします。

それから、17ページの学校の設備をいろいろと直していますというのは非常に分かりやすくいいのですが、これは全部直しているのかという話になって、まだ直し残しがあるならAという評価でいいのか、全部完了しないとAにならないのではないのかという疑問も出てくるので、その辺がやはり先ほども話したように定性的に評価する部分とそれを受けた定量的に評価する部分を明記していただければ、評価の指標も説明を聞いた方も分かりやすくいいのではないかと感じました。以上です。

宇野教育長

ご指摘ありがとうございます。おっしゃるとおりだと思います。もう少し説明を丁寧に書いてもらうように、例えば、先ほど教育相談の件数の増減について、状況を聞いてそれを加えらるか、それから学校施設修繕の進捗状況を記入してもらう等、今年中にできることは修正してもらい、来年度は矢光委員さんがおっしゃった定性のところだけではなくて、定量要素も加味してもう少し理由についても踏み込んで書いてもらうようにお願いします。ありがとうございました。

矢嶋委員

私は昨年策定のときにいなかったのだからただ読むだけだったのですが、非常に三段階評価について子どもたちの評価を◎か○か△にするのかというところで迷ったことを思い出して、どこまでいったら◎なのかというところがこれではわからないと思いました。それから、目標を立て実行して反省して次の課題をというPDCAの繰り返しですよね。ですからAになったからここで満足ではなくて、常に次の課題

を考える、あるいはここまで達成できたというような具体的な評価基準があればAに納得できると思います。または、今後AはAなりに来年の目標が立てられるとうかそういう風な評価でありたいと思いました。雑駁ですみません。以上になります。

宇野教育長

今の矢嶋委員さんがおっしゃったこともこれから改善していければと思います。よろしく申し上げます。建設的貴重なご意見をいただき大変ありがたく思います。今年変更できるところは変更して送付をさせていただきますので、そちらも含めてここでお認めいただくということによろしいでしょうか。ありがとうございました。

【了知】

5 その他

(1) 全国学力・学習状況調査結果について

(非公開)

〔説明〕 佐野学校教育課長

【了知】

(2) 山梨県学力把握調査集計結果について

(非公開)

〔説明〕 佐野学校教育課長

【了知】

(3) 令和7年度県教育施策及び予算に関する要望書について

〔説明〕 佐野学校教育課長

こちらは県内各教育委員会から提出されたものを基に山梨県市町村教育委員会連合会の方でとりまとめ、令和6年8月23日付けで山梨県教育委員会に提出したものの写しになります。

内容につきましては、第3回定例会の際に大月市教育委員会からの要望としてご承認いただいたものを北都留地区教育委員会連合会に提出しております。また、その後、北都留地区でとりまとめたものを第4回定例会においてご報告しましたが、それを山梨県市町村教育委員会連合会に提出したものの結果がこちらの要望書になります。

こちらにもまたご覧いただきたいと思います。

以上、報告になります。

【了知】

- ・ 10月24日（木）午前10時00分から、令和6年度第8回教育委員会定例会を開催することを確認。

6 閉会

【教育長閉会宣言】